

平成25年行政事業レビューシート

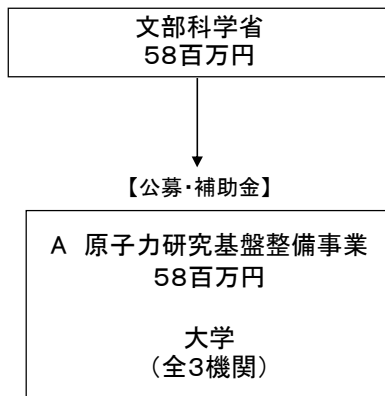
(文部科学省)

| 事業名 | 原子力研究環境整備補助金 | | 担当部局庁 | 研究開発局 | | 作成責任者 | 原子力課長 増子 宏 | |
|----------------------------|---|----------|-----------------|---|---|---|---|-------------|
| 事業開始・終了(予定)年度 | 平成19年度～平成24年度 | | 担当課室 | 原子力課 | | | | |
| 会計区分 | エネルギー対策特別会計 (電源開発促進勘定) | | 政策・施策名 | 科学技術の戦略的重点化 X-5 原子力分野の研究・開発・利用(紛争解決を含む)の推進 | | | | |
| 根拠法令 (具体的な条項も記載) | 特別会計に関する法律施行令 第51条第6項第8号 | | 関係する計画、通知等 | 原子力政策大綱(平成17年10月原子力委員会、閣議決定) | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 原子力の基盤と安全を支えていくためには、現場技術者から最先端の研究を実施する研究者、更には危機管理能力を有する人材まで幅広い原子力人材を継続的に育成・確保する必要がある。そのため、大学・大学院・高等専門学校における原子力分野の教育研究活動を支援し、将来の原子力分野の担い手となる優秀な人材を育成・確保する。 | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | 本事業は、大学・大学院、高等専門学校を対象とし、各学校における特色や強みのある原子力分野の教育研究活動を支援し、原子力や放射線に係る基礎・専門教育を行うとともに、試験研究炉や放射性同位体を用いた実験実習を通じて実践的な技術の習得を行う。併せて、進路決定前の学生に対して、原子力や放射線に係る導入教育を行う事業など原子力人材の裾野を広げる取り組みを支援する。補助事業は、広く公募を実施し、外部有識者からなる技術審査委員会の審査を経た上で、選定する。(補助率:定額) なお、本事業は平成23年度から新規採択課題の公募は実施しておらず、平成24年度をもって終了する。 | | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 | | | | | | | |
| 予算額・執行額 (単位:百万円) | | | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度要求 | |
| | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 181 | 131 | 69 | 0 | | |
| | | 補正予算 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | | 繰越し等 | △2 | 2 | 0 | | | |
| | 計 | | 178 | 133 | 69 | 0 | 0 | |
| | 執行額 | | 178 | 126 | 58 | | | |
| 執行率(%) | | 99.9% | 95.2% | 84.10% | | | | |
| 成果目標及び成果実績 (アウトカム) | 成果指標 | | | 単位 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 目標値 (年度) |
| | 本補助金により大学等における原子力分野の教育研究活動を支援し、将来の原子力分野の担い手となる優秀な人材の育成・確保に資すること。 注)本事業は、具体的な提案を受け技術審査委員会の審査を経て、人材育成活動として有望な事業に補助金を交付するものであり、特段、定量的な指標を設けていない。 | | 成果実績 | | 19機関、19課題の原子力分野の教育研究活動を支援し、将来の原子力分野の担い手となる優秀な人材の育成・確保に資した。 (参考)延べ参加者数:5,325名 | 14機関、14課題の原子力分野の教育研究活動を支援し、将来の原子力分野の担い手となる優秀な人材の育成・確保に資した。 (参考)延べ参加者数:今後集計予定 | 3機関、3課題の原子力分野の教育研究活動を支援し、将来の原子力分野の担い手となる優秀な人材の育成・確保に資した。 (参考)延べ参加者数:今後集計予定 | |
| | | 達成度 | % | - | - | - | | |
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | | 単位 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度活動見込 |
| | 補助事業者からの申請に基づき補助金を交付する。 (A)原子力研究基盤整備事業 (B)原子力研究促進事業 (C)原子力コア人材育成事業 | | 活動実績 (当初見込み) | 件数 | (A) 3 (B) 7 (C) 9 計19 | (A)3 (B)7 (C)4 計14 (14) ※新規採択なし | (A)3 計3 (3) ※新規採択なし | |
| 単位当たりコスト | (A)原子力研究基盤整備事業 19(百万円/交付件数) | | 算出根拠 | (A)原子力研究基盤整備事業 平成24年度の執行額を同年度における活動実績(交付件数)で除した。 58百万円 / 3件 = 19百万円 / 件 | | | | |
| 平成25・26年度予算内訳 | 費目 | 25年度当初予算 | 26年度要求 | 主な増減理由 | | | | |
| | | | | ※平成24年度をもって終了 | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 計 | | | | | | | |

| 事業所管部局による点検 | | | | | |
|------------------------------|--|-----------------|-----------------|--|------|
| | 項目 | | 評価 | 評価に関する説明 | |
| 国費投入の必要性 | 広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。 | | ○ | 原子力人材育成の重要性・必要性は、原子力政策大綱(平成17年10月原子力委員会、閣議決定)等に示されているなど、政策の優先度が高い事業である。また、将来の優秀な原子力人材を育成することは、原子力の基盤と安全を確保する上で基礎となるものであり、国が実施すべき事業である。 | |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | | ○ | | |
| | 明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。 | | ○ | | |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | | ○ | 支出先の選定に当たっては、十分な募集期間を確保した上で、第三者の有識者委員会にて審査を実施している。また、費目・使途については、補助金申請の段階で補助事業との関係を詳細に確認するとともに、書面調査及び現地調査により額の確定を実施し、費目・使途が事業目的に即しているか確認している。 | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | | ○ | | |
| | 単位当たりコストの水準は妥当か。 | | ○ | | |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | | - | | |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | | ○ | | |
| 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | | - | | | |
| 事業の有効性 | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | | ○ | 実際に原子力や放射線教育を実施している大学や高等専門学校を対象とした補助事業であり、実効性の高い事業となっている。 なお、経済産業省においても類似事業があるが、当該事業と共通の技術審査委員で新規採択課題の選定を行うなど密な連携をとっており、また、経産省は産業界側(需要側)の意向を踏まえた対象を、当省は教育側(供給側)の意向を踏まえた対象を公募課題とするなど、両事業の相乗的な効果が得られるように実施している。 | |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | | ○ | | |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | | ○ | | |
| 重複排除 | 類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | | ○ | 経済産業省(資源エネルギー庁)においても類似事業があるが、当該事業と共通の技術審査委員において新規採択課題の選定を行うなど密な連携をとっており、また、経産省は産業界側(需要側)の意向を踏まえた対象を公募課題とするなど、両事業の相乗的な効果が得られるように実施している。 | |
| | 事業番号 | 類似事業名 | 所管府省・部局名 | | |
| | 0646 | 原子力人材育成プログラム補助金 | 資源エネルギー庁 原子力政策課 | | |
| 点検結果 | <p>・平成22年度から機関横断的な人材育成活動を支援する「国際原子力人材育成イニシアティブ(一般会計)」を開始しており、また個々の大学・高専の人材育成活動を支援する本補助金事業については、一定の成果が認められたため、平成23年度の新規採択課題の選定は実施しないこととした。本補助金事業は、平成24年度をもって終了。</p> <p>・今後、終了課題の事後評価や制度全体の評価を行うこととしており、その結果を踏まえ、例えば「国際原子力人材育成イニシアティブ」のような原子力人材育成事業の在り方を検討していく予定である。</p> | | | | |
| 外部有識者の所見 | | | | | |
| 外部有識者による点検対象外 | | | | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | | | | |
| 平成24年度限りの経費である。 | | | | | |
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | | | | | |
| - | | | | | |
| 備考 | | | | | |
| 関連する過去のレビューシートの事業番号 | | | | | |
| 平成22年 | - | 平成23年 | 0533 | 平成24年 | 0479 |

※平成24年度実績を記入。

【原子力研究環境整備補助金】



原子力関係専攻長の強いリーダーシップと理念の下、長期的視点に基づき、施設整備や研究活動の強化充実を含む、原子力特有の基礎分野の教育研究基盤の整備を支援する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

※補助事業者側の数字は補助事業者の決算額(実績報告書ベースであることから、国の決算額と一致しないことがある。

| A.国立大学法人京都大学 | | | E. | | |
|--------------|-----------------|--------------|----|-----|--------------|
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 事業費 | 設備備品費 | 11 | | | |
| | 旅費 | 1 | | | |
| | その他(消耗品費、印刷製本費) | 2 | | | |
| 人件費 | 事業支援研究員 | 4 | | | |
| 事業管理費 | 事務補助員 | 2 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 20 | 計 | | 0 |
| B. | | | F. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |
| C. | | | G. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |
| D. | | | H. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

※補助事業者側の数字は補助事業者の決算額(実績報告書ベースであることから、国の決算額と一致しないことがある。

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 入札者数 | 落札率 |
|----|--------------|-------------------------------|--------------|------|-----|
| 1 | 国立大学法人京都大学 | 京都大学原子力実験所における原子力教育研究基盤の整備 | 20 | 公募 | - |
| 2 | 国立大学法人東京大学 | 国際舞台で活躍出来る原子力グローバルリーダー教育プログラム | 19 | 公募 | - |
| 3 | 国立大学法人東京工業大学 | カリキュラム充実による原子力大学院教育基盤の整備 | 18 | 公募 | - |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |

※補助事業者側の数字は補助事業者の決算額(実績報告書ベースであることから、国の決算額と一致しないことがある。

※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない。